

平成 27 年度 実験・実習技術研究会 in 西京 参加報告

菅田 敏則 電気電子・情報技術分野

1. はじめに

実験・実習技術研究会は、総合技術研究会と隔年で開催されており、全国の大学・研究所・高専の技術系職員による日常業務の中での改良や改善、新たな取り組みなどについての発表や情報交換の場となっている。今回は創基 200 年を迎えた山口大学・吉田キャンパスで開催され、参加機関は 85、参加者の総数は 478 名、本学からは 5 名が参加した。

2. 概要

期日：平成 28 年 3 月 3 日（木）～4 日（金）

場所：山口大学 吉田キャンパス

主催：山口大学

シンポジウム

「大学の技術職員組織を考える

シンポジウム in 山口大学」

パネリスト

小綿 利憲氏（岩手大学）

水野 保則氏（静岡大学）

丹松 美由紀氏（鳥取大学）

村上 義博氏（広島大学）

コーディネータ

岡 征子氏（北海道大学）

コメンテータ

玉岡 悟司氏（名古屋工業大学）

シンポジウムの資料は、以下に記載されていません。

<https://saikyo27.tech.eng.yamaguchi-u.ac.jp/program.php#tabs4>

記念講演

「ピンチはチャンス」

講師：旭酒造株式会社 代表取締役

桜井 博志 氏

3. 研修内容

1 日目、受付後に大学の技術職員組織を考えるシンポジウムが開かれ「組織化の背景」、「組織の紹介」、「抱える問題」、「今後のあり方」について討論された。午後に開会式に続いて基調講演とポスター発表 156 件が行われ、終了後に別会場で情報交換会が行われた。2 日目に口頭発表が行われ件数は 76 件であった。

本学からは高柳充寛氏の「長岡技大生物機能工学課程での学生実験の再編」と題したポスター発表と、宮正光氏が「乾電池の発明者『屋井先蔵』を紹介する手づくり乾電池教室」と題した口頭発表を行った。



4. おわりに

シンポジウムでは、それぞれの大学の事情により、組織化が難しい大学もあることが分かった。本研究会で見聞したことを自らの糧とし、今後の業務遂行に多少なりとも生かせるように日々努力していきたいと思う。